

原文部分：

第十四篇

8000メートル峰への挑戦

かつて小紙に連載された井上靖の小説「氷壁」は、世に登山ブームを巻き起こした。読まれた方もおられようが、主人公の勤め先の上司が、なかなか味わい深い。穂高岳の氷壁をめざす部下を案じて言う。

「登山家というものも、いい加減なところでやめないと、いつかは生命を棄てることになると思うんだ。危険な場所へ自分をさらすんだからね。確率の上から言ったら、そういうことになる」。時は流れて、今なら「危険な場所」の最たるものは8000メートルを越す山々だろう。

酸素は平地の3分の1しかない。「死の地帯」と呼ばれ、自然が人間を拒絶している場所だ。世界に8000メートル峰は14座あるが、すべて登った日本人はまだいない。10座目に挑んでいた名古屋の田辺治さん（49）が先月、ヒマラヤで遭難した。

登山に限らず、知名度と実力とがイコールでないことはままたまある。田辺さんは逆に、広く知られた人ではなかったが実



力は指折りだった。世界的な難峰や難ルートにいくつも足跡を残してきた。

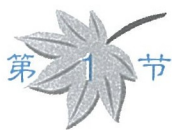
謙虚な人柄でもあった。6年前、やはり10座目に、やはり49歳で落命した群馬の名塚秀二さんの「偲ぶ会」で会ったことがある。「登山には拍手も喝采もない。そこがいいんです」と言っていたのが印象深い。淡々とひたむきだったその姿が、大雪崩に消えた。

14座の完登者は世界で20人余を数える。日本では12座の竹内洋岳さん（39）が最も近い。一流の登山家ほど「命知らず」の行動から遠いものだ。「氷壁」の上司の老婆心は胸に封じつつ、だれであれ無事の達成を祈る。

2010年10月24日



学习部分：



8000メートル峰への挑戦

かつて小紙に連載された井上靖の小説「氷壁」は、世に登山ブームを巻き起こした①。読まれた方もおられようが、主人公の勤め先の上司が、なかなか味わい深い②。穂高岳の氷壁をめざす部下を案じて言う。

「登山家というものも、いい加減なところでやめないと、いつかは生命を棄てることになると思うんだ。危険な場所へ自分分をさらすんだからね。確率の上から言っちゃって、そういうことになる」。時は流れて、今なら「危険な場所」の最たるものは8000メートルを超す山々だろう③。



译文

挑战8 000米高峰

本报以前曾连载了井上靖（1907—1991）的小说《冰壁》，这在（日本）社会上掀起了一股登山热。估计有人看过这部小说，主人公所在单位的上司是一个很风趣的人。他提醒（直译：担心）将要攀登穗高岳冰峰的部下，说道：

“我认为，所谓登山者，就是要知道适时停退，不然



的话，什么时候把命给弄丢了都不好说，因为他们把自己置于险境之中。即便是从概率上来讲，也是如此。”斗转星移，如今人们共识中的“险境”莫过于超过8 000米高的群山了。

- ① **注解** 这是指上世纪50年代中期曾在《朝日新闻》上连载了井上靖的小说《冰壁》。
- ② **注解** 「なかなか味わい深い」是指上司这个人很有意思。「味わい深い」不但可以用于抽象的事物，也可用于人。如「味わい深い表現」（意味深长的表达）；「味わい深い人」（有意思的人）等。“部下”即“小说主人公”。
- ③ **注解** 「時は流れて」是指随着时光的推移，人们对“险境”的认识有所不同。以前的“险境”，也许是8 000米以下，但现在随着登山技术的提高，现在的“险境”则在8 000米以上了。



生词&例句

【かつて】^{かつ}【曾て】（1）曾经。（2）以前。

<例句> ● かつてどこかで会ったことのある人。⇒ 曾在什么地方见过面的人。

● かつてはここに城が建っていた。⇒ 以前在这里建过一个城堡。

【ブーム】boom。……热；热潮。

<例句> ● ブームが起こる。⇒ 掀起热潮。

● サッカーのゲームソフトが一大ブームを巻き起こ

した。⇒掀起了玩足球游戏软件大热潮。

【案じる】 あん 担心；挂念。

<例句> ●妻の体を案じる。⇒挂念妻子的身体。

●試験は案じたほどでもなく、無事に終わった。⇒
考试并不像担心的那样，很顺利地结束了。

【いい加減】 かげん 差不多；适可而止。【参考日语词典对此词的解
释】：相当な程度に達しているので、ほどほどのところで終
わってほしいさま。

<例句> ●いい加減に雨もやんでほしい。⇒雨下得差不多了，
希望能停下来。

●冗談はいい加減でやめてくれ。⇒开玩笑要适可而
止。

【棄てる】 す **【捨てる】** す 扔掉；抛弃；放弃。

<例句> ●ごみを捨てる。⇒扔垃圾。

●命を捨てる覚悟でやる。⇒豁出性命去干。

【さらす】 さら **【晒す】** さら **【曝す】** さら (1) 晒；暴晒。(2) 置于；暴露。

<例句> ●日にさらして肌を焼く。⇒晒(黑)皮肤。

●身を危険にさらす。⇒置身险境。

【流れる】 なが 流动；流逝。

<例句> ●川が市内を流れる。⇒河道流经市内。

●時が流れる。⇒时光流逝。

【最たる】 さい 最甚；最具代表性。

<例句> ●成金趣味の最たるものだ。⇒暴发户心理的典型表
现。

- 戦争は人類による愚行の最たるものである。⇒ 战争是人类最愚蠢的行为。

第 2 节

酸素は平地の3分の1しかない。「死の地帯」と呼ばれ、自然が人間を拒絶している場所だ。世界に8000メートル峰は14座あるが、すべて登った日本人はまだいない④。10座目に挑んでいた名古屋の田辺治さん(49)が先月、ヒマラヤで遭難した。

登山に限らず、知名度と実力がイコールでないことはままある。田辺さんは逆に、広く知られた人ではなかったが実力は指折りだった⑤。世界的な難峰や難ルートにいくつも足跡を残してきた⑥。



译文

(险峰上的) 氧气只有平地的三分之一。(这里) 被称为“死亡地带”，是大自然拒绝人类去的地方。世界上有14座8000米以上的高峰，但还没有哪个日本人把它们全部征服。上个月，名古屋的田边治先生(49岁)在喜马拉雅挑战他的第10座高峰时遇难了。

不仅是登山，(就是在别的项目上) 知名度和实力不一致的也时有之。田边先生虽非广为人知，但实力却屈指可数，世界上一些最险峻的山峰上曾留下了他的足迹。



- ④ **注解** 这后半句直译的话就是“(所有的高峰)都攀登过的日本人还没有”。
- ⑤ **注解** 这句是说虽然田边知名度不高,但实力很强。此句印证前一句。
- ⑥ **注解** 「難ルート」指险峻的山道,在译文中,因其已包括在“险峰”中,故略而不译。



生词&例句

【挑む】 いど 挑战; 征服(大自然等)。

- <例句> ● 世界記録に挑む。⇒ 向世界记录挑战。
● エベレストに挑む。⇒ 挑战珠穆朗玛峰。

【遭難】 そうなん 遇难; 遇险。

- <例句> ● 危うく遭難を免れた。⇒ 幸免于难。
● パーティー5人が雪崩で遭難した。⇒ 登山队的五人碰到雪崩遇难了。

【イコール】 equal。等于; 相等。

- <例句> ● AイコールB。⇒ A等于B。
● 個人主義と利己主義とはイコールではない。⇒ 个人主义并不等于利己主义。

【まま】 まま **【間間】** 有时; 偶尔; 往往。

- <例句> ● 誤りがままある。⇒ 时有错误。
● そうということがままある。⇒ 偶尔(往往)会有那种事。

【指折り】 ゆびお 掰指头(数); 屈指可数。



<例句> ●指折り数えて父の帰りを待つ。⇒ 掰着指头算父亲
归来日子。

●A社は日本で指折りの大企業だ。⇒ A公司在日本是
屈指可数的大企业。

第 3 节

謙虚な人柄でもあった⑦。6年前、やはり10座目に、やはり
49歳で落命した群馬の名塚秀二さんの「俣ぶ会」で会ったこ
とがある。「登山には拍手も喝采もない。そこがいいんです」
と言っていたのが印象深い⑧。淡々とひたむきだったその
姿が、大雪崩に消えた。

14座の完登者は世界で20人余を数える。日本では12座の竹
内洋岳さん(39)が最も近い。一流の登山家ほど「命知ら
ず」の行動から遠いものだ⑨。「氷壁」の上司の老婆心は胸
に封じつつ、だれであれ無事の達成を祈る。



译文

他为人谦虚。6年前，我在群馬县名塚秀二先生的追
思会上见过他。名塚先生和田边先生一样，同样是在攀
登第10座高峰、同在49岁时失去生命。田边先生说：“登
山，既没有人为你鼓掌，也没有人为你喝彩。但我非常喜
欢它。”他的话给我留下了深刻的印象。他（在那险峰上）
默默地、一往无前地攀登着，最后，在一次大雪崩中消逝。

世界上，全部攀上14座高峰的共有20多人。在日本，攀上12座高峰的竹内洋岳先生（39岁）算是最接近这个数字的了。越是一流的登山者，越会慎重——会远离“不顾性命的登山行为”。我在回味（直译：牢记）《冰壁》中（主人公）的上司说的肺腑之言的同时，祈愿每位登山者平安无事、登顶成功！

- ⑦ **注解** 此句紧接上一段而来，因此，是指田边。
- ⑧ **注解** 「そこがいいんです」通常用在前面提及的内容被认为是不理想之事，但说话人却认为那才是乐趣之所在。意即“那正是我喜欢之处”、“我非常喜欢它”等。
- ⑨ **注解** 「…ほど」表示程度，即“越……越……”。译文中的“越会慎重”为意译，与前半句相呼应。



生词&例句

ひとがら
【人柄】人品；为人。

<例句> ●すぐれた人柄。⇒ 出众的人品。

●彼は人柄がいい。⇒ 他人品好。

しの
【偲ぶ】怀念；缅怀。

<例句> ●故郷を偲ぶ。⇒ 怀念故乡。

●故人を偲ぶ。⇒ 缅怀逝者。

【ひたむき】一个劲儿；专心致志。

<例句> ●ひたむきな努力。⇒ 不懈的努力。



- わき目もふらずひたむきに研究に没頭した。⇒ 一心埋头研究。

【余】 余；多。

<例句> ● 50余人。⇒ 50多人。

- 3キロ余。⇒ 3公里多。

【老婆心】 ろうぼしん 好心；恳切之心。

<例句> ● くどく言うのも老婆心からです。⇒ 我屡次三番地说也是出于一片好心。

- 老婆心までに申し上げますが、今度の計画はおやめなさい。⇒ 我恳切相劝，请您停止这次计划。

【つつ】 (接续助词) 一边……一边……；一面……一面……。

<例句> ● テレビを見つつ食事をする。⇒ 一面看电视一面吃饭。

- 成功を期待しつつ情勢の変化を見守る。⇒ 在期待成功的同时，注视局势的发展。

日语难读词之角

- 裸足（はだし）：赤脚；赤足。
裸足で歩く。⇒ 光着脚走。
- 昼行灯（ひるあんどん）：笨蛋；蠢家伙；没用的人。
昼行灯的生き方。⇒ 愚蠢的生活方式。
- 直談判（じかだんぱん）：直接谈判；直接交涉；面谈。
社長と直談判をしなければ埒が明かない。⇒ 不和总经理直接谈，问题就得不到解决。

